令和2年度(2020年度)第2回 豊中市保健医療審議会 議事録

1. 日 時 令和3年2月16日(火)14時00分～15時30分

2. 場 所 ZOOMによるオンライン会議

3. 案 件

- (1) 会長・副会長 選出
- (2) 部会の設置（食育推進部会）について
- (3) 保健所各課 令和3年度実施予定事業について
- (4) 新型コロナの現在の状況、ワクチンの接種体制について

4. 出席者（敬称略）

(1) 委員（名簿順）：12名

委 員	横山 美江	（大阪市立大学）
	内藤 義彦	（武庫川女子大学）
	林 宏一	（武庫川女子大学）
	岡本 千加	（（一社）大阪府助産師会）
	飯尾 雅彦	（（一社）豊中市医師会）
	真鍋 哲也	（（一社）豊中市歯科医師会）
	芦田 康宏	（（一社）豊中市薬剤師会）
	高橋 多美男	（（社福）豊中市社会福祉協議会）
	坂本 勇二郎	（豊中市病院連絡協議会）
	山西 洋一	（豊中商工会議所）
	古川 悦子	（豊中市健康づくり推進員会）
	上山 真紀	（市民委員）

(2) 傍聴者：0名

議事概要

○開会 午後 2時00分

■審議会の成立要件の確認

委員数12名のうち、12名全員出席により成立。

■案件（1） 会長・副会長 選出

委員による互選により、会長は内藤委員、副会長は飯尾委員に決定。

■案件（2） 部会の設置（食育推進部会）について

新たに食育推進部会を設置し、部会長は林委員に決定。

■案件（3） 保健所各課 令和3年度実施予定事業について

【事務局から説明】

【質疑応答】

委員	難病支援事業の防災プランの作成について、人工呼吸器を常時使用されている難病の方のみが対象か。それとも一般的な難病の方も含まれるのか。
事務局	防災プラン作成の対象者は、指定難病で人工呼吸器を使用されている方、加えて指定難病以外で事故や病気により人工呼吸器を使用される方である。
委員	今年度、新型コロナの影響でがん検診の受診率は下がっているのか。
事務局	受診率は低下している。第一波で非常事態宣言中の間は、集団検診・個別検診とも国からの指導もあり中止していたため、受診できる機会が減っている。 集団検診では今年度は回数・人数を絞って実施しているので、実施数が大幅に減っている。一方、個別検診の実施数は微減となっており、次年度からは完全個別化となるので、より安全に実施できると考えている。
委員	多胎妊婦への受診兼の追加交付ですが、妊婦の方へ多胎妊娠、あるいは出産後の育児に関する情報提供などは行うのか。デジタル化技術を活用した健康教育、両親教室など実施できるのではないかと。

事務局	<p>多胎に特化した WEB 配信は考えていないが、多胎妊娠の方には子育ての冊子の配布や、地域で活動されているサポーターやボランティア、先輩の多胎のご家族の方のご紹介などを行っている。</p> <p>多胎の方への家事支援については、こども未来部においてボランティアの方への支援など、子育て支援の面でも強化していくと聞いている。他部局とあわせ、色々な面からサポートできる体制はつくっていききたい。</p>
委員	<p>各事業をどのような基準で選んだのか、教えていただきたい。</p>
事務局	<p>次年度の主だった事業を各課の基準で選んでいる。</p> <p>健康政策課は、法律変更、事業変更をあげており、各課においても、各課長の判断で優先順位が高いものをあげている。</p>
会長	<p>過去には、保健所の全業務を紹介し、その中から議題をピックアップしていた。全体が分かる資料としては、今後電子データで配布し、そこからピックアップしてはどうか。</p>
事務局	<p>保健所の全事業については、次年度の審議会で資料として配布する予定である。ただ、審議会は限られた時間なので、その中から主だったものをピックアップして報告する予定である。</p>
会長	<p>コロナ禍により、デジタル化が広まりつつある。必要なことでメリットも大きいですが、デジタルの恩恵を享受できない方への配慮はされておられるのか。</p>
事務局	<p>母子保健課の観点からは、画面上などデジタルでのやり取りよりも、訪問・来所など面接することで、お互い得られるものもある。対面で相談支援をすることによる良さがある。</p> <p>昨年 3 月～4 月頃は、不安なので訪問をやめてほしい、という方もおられたが、その後は病院の両親教室などがなくなったので、対面で沐浴などを教えてほしいなどの要望もあり、個別で訪問したりしている。デジタルを使いつつ、対面・訪問などの方法も残しながら、支援する必要がある。</p>
会長	<p>デジタルと対面それぞれ良さがある。今後、グレードアップしていきたい。</p>

■案件(4) 新型コロナの現在の状況、ワクチンの接種体制について

【事務局から説明】

【質疑応答】

委員	豊中市では個別接種を主にされるとのことだが、どのように接種を進めていくのか。
事務局	個別接種を中心とした練馬区モデルと言われているものがあるが、まさに練馬区モデルが豊中モデルと考えている。 集団接種の会場も、市民の利便のよいところでの対応を考えている。
委員	接種の順番としては、まず医療従事者、次に高齢者、その後にその他の方となっている。 その他の方の中でも、基礎疾患のある方を優先とあるが、どのように特定するのか。市民からの自己申告により特定するのか。
事務局	基礎疾患のある方を市町村が把握することは不可能。基礎疾患の内容については国のHPなどで公開されるが、実際のところは自己申告となる。 問診票に記載した上で、医療機関受診時に認められれば基礎疾患ありとなる。
委員	豊中市で新生児訪問を行っている助産師は、優先接種となっている医療従事者となるのか。
事務局	優先接種の対象者は、コロナ患者と頻繁に接する病院勤務の方や自治体の医療関係者などであり、国からも適用例が示されている。 訪問を行っている助産師は優先接種の対象ではないため、一般の枠で受けていただくこととなる。
事務局	母子保健課でも、コロナ業務に携わる職員は希望すれば優先接種となるが、従来の母子保健業務のみについている職員は優先接種の対象にはならない。 医療従事者以外でも、高齢者施設などハイリスク施設従事者は優先接種の対象となるが、母子保健業務は通常の一般接種枠という考え方である。

副会長	<p>山西委員から接種についてのご質問があったが、昨年、長内市長とワクチン接種の話をした際に、既に豊中市においては個別接種を主として行う意思表示をいただいていた。</p> <p>個別接種や集団接種について情報が少ない状況で市長から明確な意思表示をいただいたので、非常に感ずるものがあった。市長の政治家としての資質が素晴らしく、リーダーシップをとっていただいた。</p> <p>また、個別接種を行う際には豊中市医師会が主となって動かないといけないという話もあり、医師会に対する厚い信頼を感じた。</p> <p>個別接種をするにあたっては、豊中市医師会はできる限りご協力させていただく。接種については、個別接種を主体としながら、補完する位置づけで集団接種を実施し、接種に行けない施設入居者などの方には、出前接種を考えている。</p> <p>医師会としては、個別接種を主体とした接種体制が成功するよう、取り組んでいきたい。</p>
委員	<p>出前接種については接種にいけない寝たきりのご高齢などの方へ往診で打ちに行く、となるかと思う。</p> <p>今、ノルウェーでワクチン接種後かなりの高齢者がお亡くなりになったということで、CDCも超高齢の方には打たなくてもいいのではないかなど、虚弱な方へのワクチン接種の有無は議論があるところであるが、豊中市としては寝たきりの高齢者に関しても、出前で接種を行うのか。</p>
事務局	<p>出張接種というのは、高齢者施設などに入所されておられる方が対象と考えている。在宅療養されている方の接種については、主治医の先生と相談していただくこととなります。施設入所者は、基本的にはその施設で接種するという方針ですが、その他の接種体制については医師会の先生方と調整中です。</p>
委員	<p>施設入所される方は元気な方が多い。世界的にも議論があり、接種の有無もまだ決まっていないということではよろしいか。</p>
事務局	<p>高齢者施設にも様々な分類があり、要介護度の高い方々が多く入所されている施設も多くあります。例えば、サービス付き高齢者住宅の入所者は、日常生活には不便のない方々も多くいらっしゃいます。</p> <p>いつから、どなたから接種するかというのか、まだはっきりとは示されていません。</p>

会長	<p>ワクチン接種の方向性をご説明いただいたが、今後ワクチンが日本でどのように回され使われていくか、様々な課題があり、それぞれの担当から発信されていかれると思う。</p> <p>ワクチンに関する情報提供はどのような形で発信されるのか。</p>
事務局	<p>HP やツイッター、広報とよなかなどあらゆる発信手段を使って皆さまにお伝えしていきたい。</p>

■その他

事務局	<p>次回の審議会は7月頃を予定しているが、コロナ禍の状況も勘案して臨機応変に開催させていただきます。</p>
-----	---

○閉会 午後 3時30分